

安全データシート

作成:1997年 5月27日

改訂:2025年12月 4日

1. 製品及び会社情報

整理番号 : KH026-09
製品名 : グラスショート液剤
会社名 : クミアイ化学工業株式会社
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26
担当部門 : サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号 : 03-3822-5180
FAX番号 : 03-3823-6830
緊急連絡先 : 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)
推奨用途 : 農薬(最終有効年月まで)
使用上の制限 : 推奨用途以外への使用を禁ずる。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

環境に対する有害性

水生環境有害性短期(急性) : 区分3

水生環境有害長期性(慢性) : 区分3

上記で記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」か「分類できない」。

GHSラベル要素

絵表示

該当なし。

注意喚起語

警告

危険有害性情報

【健康有害性】

H320 眼刺激

【環境有害性】

H402 水生生物に有害

H412 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

P264 取り扱い後はよく洗うこと。

P273 環境への放出を避けること。

【応急処置】

P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用
して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313

眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。

【保管】

特記事項なし。

【廃棄】

P501 内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理す
る。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者
に委託して適切に処理する。

他の危険有害性

特記事項なし。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名／一般名: ナトリウム 2,6-ビス(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イルオキシ)ベンゾエート
(別名) 2,6-ビス(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イルオキシ)安息香酸ナトリウム
／一般名: ビスピリバックナトリウム塩

成分情報		含有量 (W/W)
成分:	ビスピリバックナトリウム塩	3.0 %
その他成分:	水、界面活性剤等	97.0 %
<合計>		100.0 %

危険有害成分:		含有量 (W/W)
	ビスピリバックナトリウム塩	3.0 %
	炭酸ナトリウム	0.2 %

化学式: $C_{19}H_{17}N_4NaO_8$ ／ビスピリバックナトリウム塩

官報公示整理番号: 化審法	1-164	炭酸ナトリウム
安衛法	8-(2)-1683	ビスピリバックナトリウム塩
	8-(2)-2462	炭酸ナトリウム

CAS RN®.: 125401-92-5 / ビスピリバックナトリウム塩
497-19-8 / 炭酸ナトリウム

4. 応急措置

吸入した場合: 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息をさせること。気分が悪い場合は、医師に連絡すること。多量に吸入した場合は医療処置を受けること。

皮膚に付着した場合: 汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が接触した部位の皮膚を速やかに水や石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。汚染された衣類は再使用する前に洗浄すること。

眼に入った場合: 眼を擦ってはならない。直ちに清浄な多量の水で十分に洗浄し、医療措置を受けること。コンタクトを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の牛乳や水を与えて吐き出させる。但し、被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。気分が悪い時は、直ちに医師に連絡し、医療措置を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

アレルギー性皮膚炎を起こすおそれ。(ビスピリバックナトリウム塩)

応急措置をする者の保護: 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する特別注意事項: 治療方針を決定する際の問い合わせ先: (財団法人)日本中毒情報センター(「16. その他の情報」を参照)。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素消火剤、または乾燥砂類。
初期の消火には粉末、不活性ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

使ってはならない消火剤: 棒状放水。

- 特有の危険有害性： 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火活動上の注意： 火災発生場所の周辺には、関係者以外の立ち入りを禁止する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：
 燃焼又は高温により有毒なガスが生成するおそれがあるので、適切な自給式呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏出区域として隔離する。関係者以外の立ち入りを禁止する。風下の人を退避させる。屋内の場合、回収処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には保護具(8. ばく露防止及び保護措置欄参照)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。適切な防護具を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- 環境に対する注意事項： 流出した製品が河川等に多量に流入し、環境への影響がでないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：
 危険な状態でなければ漏れを止め、漏出物を回収し、排水溝、下水溝等への流出を防ぐ措置を取る。少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合には、盛土で困って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- 二次災害の防止策： 全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火災の阻止)。危険でなければ、漏出物を速やかに回収すること。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策： 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気： 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項： 全ての安全注意事項を読み理解するまで取扱わないこと。取扱いは換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに蒸気、ミストを発生させない。吸入を避け、皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼との接触を避けること。
- 接触回避： 情報なし。『10. 安定性及び反応性』を参照。
- 衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後は手、顔等をよく洗うこと。

保管

- 安全な保管条件： 直射日光が当たらない冷暗所に保管し、異種物質の混入を避け、火気、熱源から隔離する。
- 安全な容器包装材料： 破損していない密閉式の容器。

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度(厚生労働省)： 設定されていない。
- 許容濃度： 日本産衛学会(2025年度)、ACGIH(2025年)のいずれも設定されていない。
- 設備対策： 取り扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。貯蔵ないし取扱う作業場の近くには、洗眼及び身体洗浄のための施設を設け、位置を明瞭に表示すること。
- 保護具： 選定にあたり「皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアル(2025年3月第2版 厚生労働省)」を参考にすること。
- 呼吸用保護具： JIS T 8150を参照。作業に適する性能及び構造の防じんマスク又は防毒マスク(JIS T 8151、JIS T 8152に適合する防じんマスク、有機ガス用防毒マスク、農薬用マスク等)を着用すること。
- 手の保護具： JIS T 8116を参照。作業状況に応じた適切な不浸透性の保護手袋(ゴム手袋等)を使用すること。

と。選定にあたっては、必要に応じて保護具メーカーから情報を入手すること。

眼、顔面の保護具：JIS T 8147を参照。作業状況に応じた適切な保護眼鏡（側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を使用すること。

皮膚及び身体の保護具：化学防護服はJIS T 8115、化学防護長靴はJIS T 8117を参照。作業に適した作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 水溶性液体
色	: 無色～淡黄色
臭い	: データなし。
融点/凝固点	: データなし。
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし。
可燃性	: -
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: -
引火点	: -
自然発火点	: -
分解温度	: データなし。
加水分解性	: データなし。
水中光分解性	: データなし。
pH (原液)	: 8.5-10.0
動粘性率	: データなし。
溶解度	: データなし。
オクタノール/水分配係数	: データなし。
蒸気圧	: データなし。
密度及び/又は相対密度	: 1.00-1.06(比重)
粉じん爆発下限濃度	: -
最小着火エネルギー	: -
相対ガス密度	: -
粒子特性	: -

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし。
化学的安定性	: 通常の保管環境下で安定
危険有害反応可能性	: データなし。
避けるべき条件	: データなし。
混触危険物質	: データなし。
危険有害な分解生成物	: データなし。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット(♀) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg 異常症状及び死亡例なし。	「区分に該当しない」
急性毒性(経皮)	: ラット LD ₅₀ > 2,000 mg/kg 異常症状及び死亡例なし。	「区分に該当しない」
急性毒性(吸入:ガス)	: GHSの定義における液体である。	「区分に該当しない」
急性毒性(吸入:蒸気)	: データなし。	「分類できない」
急性毒性(吸入:粉じん)	: GHSの定義における液体である。	「区分に該当しない」
急性毒性(吸入:ミスト)	: ラット LC ₅₀ > 5.07 mg/L	「区分に該当しない」
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギ(♂) 皮膚反応はなく、刺激性なし。	「区分に該当しない」
眼に対する重篤な損傷性	: ウサギ(♂) 中等度の刺激性が認められたが、	「区分2B」

／眼刺激性	6日以内に完全に回復した。	
呼吸器感作性	: データなし。	「分類できない」
皮膚感作性	: モルモット(♂) Buehler法で陰性。感作性なし。	「区分に該当しない」
生殖細胞変異原性	: データ不足。 (参考)ビスピリバックNa塩原体:区分に該当しない。	「分類できない」
発がん性	: データ不足。 (参考)ビスピリバックNa塩原体:区分に該当しない。	「分類できない」
生殖毒性	: データ不足。 (参考)ビスピリバックNa塩原体:区分に該当しない。	「分類できない」
授乳を介した影響	: データ不足。	「分類できない」
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分3(気道刺激性、麻酔作用)に分類される 炭酸ナトリウムを含有するが、GHS濃度限界 未満である。総合的にはデータ不足のため 分類できない。	「分類できない」
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分2(肝臓)に分類されるビスピリバックNa塩を 含有するが、GHS濃度限界未満である。 総合的にはデータ不足のため分類できない。	「分類できない」
誤えん有害性	: データなし。	「分類できない」

12. 環境影響情報

水生生物に対する影響

以下の知見から水生環境有害性 短期(急性)及び長期(慢性)は「区分3」とした。

生態毒性

魚(コイ)	: LC ₅₀ (96時間)	58.0 mg/l
甲殻類(オオミジンコ)	: EC ₅₀ (48時間)	96.0 mg/l
藻類(緑藻)	: ErC ₅₀ (72時間)	121.0 mg/l

その他の生物への有害性

蚕	: LC ₅₀	>500 ppm(a.i.換算値)
ミミズ	: LC ₅₀ (14日間)	>1,000 ppm土壌(製剤換算)
コリンウズラ	: LD ₅₀ (14日間)	>2,250 mg/kg体重(製剤換算)
ミツバチ	: 経口 LD ₅₀ (48時間)	>100 μg/bee(製剤換算)
ミツバチ	: 接触 LD ₅₀ (48時間)	>100 μg/bee(製剤換算)

残留性／分解性

: データなし

生体蓄積性

: データなし

土壌中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: データなし

その他

: 抑草剤であり、植物に影響がある。

蚕、魚類に対して影響があるので周辺の桑葉や養魚田に飛散又は

流入しないよう注意する。

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの

処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止

を確実にする。車輦、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国際規制

国連番号(UN number)	: 非該当
国連輸送名(Proper shipping name)	: 非該当
国連分類(Class)	: 非該当
海洋汚染物質(Marine pollutant)	: 非該当

国内規制

海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
陸上規制情報	: 道路法、消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 : ー

15. 適用法令

農薬取締法	: 該当
消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する 法律	: 産業廃棄物

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献:	1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
	2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針 2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
	3) GHS分類ガイダンス(Ver.2.1) 経済産業省(令和6年5月)
	4) 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会2025年度)
	5) 2025 TLVs [®] & BEIs [®] (ACGIH)
	6) 資材メーカー提供「安全データシート」
	7) NITE-CHRIP 有害性・リスク評価情報

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大阪(年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話	072-726-9923
つくば(年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。